

「天におられるわたしたちの父よ」、主の祈りの最初の言葉です。父とは神さまのことです。わたしたちは、「天」に向かってお祈りをさげているということがわかります。

日常で「天」とは、鳥たちが飛び回る空間、つまり「空」を指します。創世記には「神は大空を造り、大空の下と大空の上に水を分けさせられた。そのようになった。神は大空を天と呼ばれた。(創世記 1 章 7～8 節)」という記述があります。古代の人々は、上空にはドーム型の天井があり、そこには水が貯えられていると考えていました。そこには窓があり、窓が開くと雨が降ると考えていたようです。(ノアの箱舟の物語に書かれています。)

キリスト教では前述のように、「天」には神さまがおられると考えています。イエス様は天から降られ、そして天へと昇っていかれました。イエス様は十字架と復活によって、天と地との橋渡しをされます。わたしたちに天への道を開くためです。

わたしたちの本国は天にあり、わたしたちは地上においては旅人です。わたしたちは永遠の住まいである天にある故郷をめざして歩いていくのです。日本聖公会聖歌集 510 番「生まれいずるときは」にある「まことのふるさとへ帰る旅がはじまる」という歌詞が、思い起こされます。

なお、マタイによる福音書には「天の国」という言葉が多く見られます。その多くは、他の福音書で「神の国」と書かれている箇所です。ユダヤの人たちは畏敬の念から、神という言葉をあまり用いませんでした。十戒にある「神の名をみだりに唱えるな」という戒めとも関連しているかもしれません。そのため、「神の国」ではなく「天の国」という言い方を多用していると言われます。

次回は「天使」です。お楽しみに。



「キリストの昇天」
ガロファロ

(1481～1559 年)

わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。

(ヨハネによる福音書 14 章 2 節)

